

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1296700014		
法人名	有限会社 かつみ		
事業所名	グループホーム あんしん睦沢		
所在地	千葉県長生郡睦沢町川島757-1		
自己評価作成日	平成26年1月17日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>農家の民家を利用し、家庭的な温かみを感じ、自然に恵まれた環境で、季節を感じる事ができる。スタッフは、利用者をサポートし、寄り添いながら支援している。季節折々のレクリエーションをし、笑顔あふれる施設を目指している。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>民家を改修した「グループホームあんしん睦沢」は、入居者にとって馴染み深い造りの施設となっており、特に日当たりの良い縁側は入居者がくつろげるスペースとなっている。敷地内には、畑や鶏小屋があり、収穫した野菜や卵を食卓に活用し、入居者の生活歴を活かした活動・楽しい食卓作りにつながっている。昨年度の外部評価後、運営推進会議の定例化及び自治会の加入を実現し、地域との交流や市との連携を強化しており、施設の理解促進や協力体制の構築を図っている。入居者と職員が信頼関係を築いており、温かみのある施設で寄り添うような支援を行っており、入居者が落ち着いて過ごせる環境となっている。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成26年2月20日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個人を尊重し安全で安心して楽しく、美しい共同体を含めた和をもって確立する」という法人理念を掲示している。	「人権の尊重」「自立支援」「心を癒やす」を主眼とした理念を掲げている。事業所内に掲示すると共に、職員の入職時研修等を通じて、職員への周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入でき、散歩の際には挨拶している。また、自治会に加入でき、地域(近所)の人々との交流ができつつある。	日頃から地域住民や近隣商店とは、あいさつを交わす関係を築いている。自治会に加入し、回覧版に施設情報を入れてもらうと共に、パンフレットを近隣商店に設置してもらい、施設理解の促進を図っている。その他にも地域のボランティア受け入れ等を通じて、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に貢献できる様、取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の定期的な開催を行っている。地域、行政との情報や意見交換をし、サービスの向上に取り組んでいる。	市役所職員、地域区長、民生委員、家族等を構成員として、年2回、運営推進会議を開催している。会議では、活動報告や意見・情報交換を行い、施設の理解促進及びサービスの質の向上に努めている。また、今後も会議の定例化を図り、市や地域との交流を深めようとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設運営全般に関わる相談や町からの受け入れや要請にも対応し、協力関係が図られている。	日頃から市に対して、業務における相談や報告を行い、連携を図っている。地域のグループホーム連絡会に加入し、会議を通じて、市と意見・情報交換を行うと共に、研修・事例検討を行い、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロへの手引き(マニュアル)がある。身体拘束をしないケアに日々取り組んでいる。	身体拘束排除における施設方針を明文化しており、声掛けや見守りを適切に行い、入居者の自由な生活を支援している。困難事例においては、市職員と対応策を検討する等、市とも連携を図りながら適切な支援の実施に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員を教育すると共に、資料等を活用し虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修の機会があれば、出席させたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用申し込み時に契約書等の説明を行い、理解していただいた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時に意見、要望の確認を行っている。挙げた意見、要望は会議にて周知し、適切な改善に努めている。	家族の面会時・電話連絡時に意見・要望等を確認していると共に、運営推進会議に家族が出席しており、意見・質問等を確認している。挙げた意見・要望等においては、申し送り・連絡ノート・日誌・会議等を活用し、周知・検討を図りながら適切な改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノート、月1回の会議が定着し、意見を確している。スタッフ同士コミュニケーションを図り、言い易い環境作り心掛けている。	定期的に会議を開催し、職員からの意見・提案等を確認すると共に、日々の申し送りや管理者が職員と会話する際に個々の意見・要望・思い等を確認している。また、法人内でも定期的に会議を開催しており、現場の意見を確する機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の整備に努めている。給与水準については、現場で査定するシステムになっていない為、反映されない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部から研修案内があれば、積極的に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の研修に参加している。また、系列法人の運営する施設訪問を行っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意思が確認できる方は、要望に添える様努めている。できない方は、表情から安心を感じられる様、心がけている。また、スタッフにも寄り添う事の大切さを教えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いで、不安・要望等を聞き、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との話し合いで優先順位は何かを考え、状況の変化に応じ提案するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは利用者に寄り添い、会話や行動をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に現在の状況説明をし、本人と家族の話がスムーズに行く様サポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友達との外出等、自由になっている。馴染みの場所への外出支援も行われている。	知人・友人の来訪は随時受け付けており、馴染みの人との関係継続に配慮すると共に、家族との外出・外泊は自由となっており、家族関係の継続も支援している。また、入居者個々の生活歴・習慣に配慮し、馴染みの場所への外出や庭いじり等の趣味・特技を活かした活動も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を見ながら、スタッフと共に調理や補助を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、他病院や施設入所した方への支援はしていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の様子観察、家族からの意向聴取や生活歴の確認により、対応を工夫して確認、本人主体の支援に努めている。	契約時に、本人・家族から意向・生活歴・身体状況を確認すると共に、必要に応じて医療機関や他サービス事業所から情報提供を受け、より詳細な情報の把握に努めている。日々の記録を職員全員に回覧している他、会議や申し送りノートを活用し、職員全員で入居者の意向・身体状況等を共有できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルサイン、排尿・排便状況の把握、歌や絵、草むしりや畑仕事などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の求める介護計画に近づけるよう作成し、3か月に1回必用に応じて見直しをしている。	本人・家族の意向や身体状況を踏まえ、会議にて検討の上、介護計画を作成している。定期的に介護計画の目標の達成状況の確認や評価を行い、必要に応じて、介護計画の見直しを行っている。また、家族も交えて話し合いを行い、意向やニーズの確認をしており、現状に即した介護計画の作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・申し送りノーター・会議・ヒヤリハット等を活用し、情報を共有できる様になっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に合わせ職員からの提案などを取り入れながら、柔軟な対応ができる様心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流を図り、一人ひとりが地域の一員として、生活できる様に働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医への受診可能となっていて、必要に応じて行っている。また、必要に応じて往診も行われていると共に、歯科医の往診も実施している。協力病院とは24時間対応可能な支援体制がある。	希望のかかりつけ医への受診が可能となっており、歯科医・内科医の往診も実施されており、適切な受診支援を行っている。協力医療機関・訪問看護ステーションとは、24時間連絡が可能となっており、緊急時・急変時における協力体制を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、看護師の訪問で、情報交換や指示を仰いでいる。また、最低でも3カ月に1回の受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の看護師と介護側で情報交換し、退院後に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期における施設の方針、対応等、家族に説明し、同意を得ている。日頃から協力病院とは連携を図りながら、施設として出来る限りの支援が行えるよう取り組んでいる。	重度化・終末期における施設方針を明文化すると共に、家族の同意書を得ている。必要時には、会議にて、対応策を検討しながら、家族の意向に沿った支援が行えるよう努めている。医師・訪問看護ステーションには24時間連絡可能となっており、緊急時・急変時の協力体制を構築している他、往診や訪問看護の実施回数を調整しながら適切な支援が行えるよう体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	判断が難しい時は、看護師に常時連絡が取れる体制となっている。応急手当等、スタッフは研修を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防避難訓練を実施していると共に、火災報知機・消火器・非常誘導プレート・火災通報装置・避難経路を配置し、緊急時に備えている。スタッフは、救命救急の講習を受講している。	火災報知機・自動通報機等の設備を設置していると共に、定期的に避難訓練を実施している。訓練では、消防署立ち会い訓練・消火器訓練等が実施されており、非常災害時の対応方法を研修している。また、運営推進会議等で地域に対する協力要請を議題にあげる等、地域との関係促進も図っている。	訓練を定期的に行っているが、今後は、夜間を想定した避難方法の確認や対応方法の研修を実施し、災害時・緊急時における対策をより万全化して頂く事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護研修は会議にて行われており、スタッフ一人ひとりが「プライバシーの侵害とは？」等、意見を出し、共通認識を持ちながら日々のケアに取り組んでいる。	プライバシー保護に関する研修を実施し、職員への理解促進を図っている。研修では、「何がプライバシー侵害に当たるか」を職員全員に確認し、話し合いを行っており、職員の意識向上を図っている。また、入居者の希望に応じて、同性介助を行う等、入居者のプライバシーに配慮した適切な支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	天気の良い日には、散歩や外出が出来る様、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々が自由に過す。スタッフが提案をし、散歩・買い物・ドライブ・畑や庭の手入れ・折り紙などを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族から持ち込まれた衣類や入所時持参した化粧品などで、外出時には化粧をして出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望に応じて、食材の買い出しから後片付けを、スタッフと共に行っている。同法人の栄養士が作成したバランスの摂れた食事が提供されている。手作りおやつや、季節ごとの行事食、外食の提供もしている。	食事の準備や片付け等を入居者と共同で行っている。献立は法人の栄養士が作成しているが、入居者の希望や旬等を考慮して変更しており、柔軟に対応している。定期的には外食・手作りおやつ・行事食等を実施しており、食に対する楽しみを支援している。	

【千葉県】グループホーム あんしん睦沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列法人の栄養士が作成した献立を基にしている。食事や水分の摂取量は、ケース記録に記入。利用者の状態の変化に応じて、食事形態も変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に2回訪問歯科を受けている。一人でケアできる利用者は、時間がかかっても声かけ・見守りで対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、適切な排泄支援を行っている。また、必要に応じて医師・看護師と相談している。	排泄チェックリストを作成し、個々の排泄パターンを把握すると共に、夜間時には、ポータブルトイレの使用やトイレ誘導等を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。日頃から食事・水分・運動等に気を配り、必要に応じて、医師や看護師と相談しながら適切な排便コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェック表、乳酸菌飲料の摂取。散歩や体操等、個々に応じて取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を定めているが、希望や体調に応じて、曜日や回数の変更等、柔軟な対応を行っている。また、柚子風呂(冬至)や入浴剤で保温効果や季節感を味わってもらえる様に努めている。	入居者の希望や体調に応じて、回数等を調整していると共に、清拭・部分浴・シャワー浴等を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。また、季節や希望に応じて、ゆず湯や入浴剤を使用する等、入浴が楽しく行えるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室にエアコン完備。日中居室で休まれる方や、夜間の室温調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の処方箋に従っている。また、スタッフ2人体制で、誤薬の無いように、本人と薬の確認を行い、飲み込みまでの確認を行っている。		

【千葉県】グループホーム あんしん睦沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ・新聞折り・庭先の手入れ・買い物・散歩等、気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望や体調に応じて散歩や買い物等の日常的な外出支援を実施し、楽しめる様支援している。外出行事の企画あり。戸外での楽しみを支援し、また、同法人のグループホームとの行き来で、外部の人との交流が行われている。	日頃から散歩・買物・ドライブ等の外出機会を設けていると共に、敷地内にある畑や鶏小屋等を活用して、気軽に外の空気を楽しめるよう配慮している。また、定期的に外出行事や同法人の他グループホームとの交流が行われており、戸外での楽しみ・外部との交流を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、対象となる利用者が2名。その他の利用者はないが、支援する様努める。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	軽度な利用者は、家族に電話や手紙のやり取りが出来る様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設は民家を改修しており、温かみや親しみを活かした施設作りとなっている。手すりやスロープを増設して、利用者の安心・安全が確保されている。日当りの良い縁側が、利用者の憩いの場となっていて、思い思いに生活が出来る様な空間を確保している。	民家を改修した施設内は、入居者にとってなじみ深い造りとなっており、落ち着いて過ごせる雰囲気作りがなされている。リビング・和室・縁側等、自由にくつろげるスペースが確保されており、入居者の自由な生活に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や和室・縁側にソファを置いてあり、それぞれに過ごしている。		

【千葉県】グループホーム あんしん睦沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望に応じて、馴染みの物を持ち込む事ができる。エアコンも完備、希望に応じて、和室・洋室が希望可能。	希望に応じて馴染みの家具等を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮していると共に、布団の使用やテレビの持ち込みも可能となっており、入居者の生活歴に合わせた居室作りがなされている。全居室にエアコンが設置されており、適切な空調管理がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	古民家なので、バリアフリーではないが、ちょっとした段差には目立つように、赤いテープを貼り、注意してもらおう様工夫している。		